

## 第34回日本テコンドー協会総会

2017年11月25日（土）、アジア・ユース・センター国際ホール（東京水道橋）において第34回日本テコンドー協会総会が開催されました。



河明生会長は、本総会の主題として「少年少女部の一層の強化」を強調されました（下段要旨参照）。



人事では、本年度、抜群の功勞で J T A 発展に寄与した趙哲来三段が正指導員に任命されました。  
(後日紹介記事掲載)



鹿児島曾於テコンドー同好会 (責任者・相良典隆) および  
岡山岡南テコンドー同好会 (責任者・森山賢次郎。追加昇格) が  
「テコンドー・クラブ」に昇格しました。



全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会 2つの予選会の主催権、すなわち  
中部テコンドー選手権大会 兼 愛知テコンドー選手権大会は、愛知県テコンドー連盟、  
四国テコンドー選手権大会 兼 高知テコンドー選手権大会は、高知県テコンドー連盟に  
完全に移譲されました。

## 河明生会長 本総会の主題要旨

日本テコンドー協会の少年少女部から、  
野原颯太（長崎佐世保 TC）、長濱聖英（同）、寺川洸大（同）、青木隼人（東京江東 TC）、  
福島良菜（福岡筑紫野 TC）、斉藤未有（同）、福島宏青（同）、武田龍倭（東京城南雑色 TC）、  
伊藤岳陽（名古屋天白 TC）、今津史博（同）等、優秀な若き門人が輩出されています。

彼らは小学校低学年から JTA に入門しました。  
昇段後も持続的に継続し、武道能力および精神力を強化し、  
全日本 FT 大会で優勝・入賞する有力選手に成長しておりますが、同時に学力も伸ばしています。  
真正なる文武両道の道を歩んでいるのです。  
このような優秀な若き門人を持続的に輩出することが、J T A の使命の一つです。

河会長の持論は、文武に秀でるためには「中学・高校で球技の部活をやらないこと」です。  
野球やサッカー等の球技はスポーツであって、文武両道の「武」ではありません。  
若い頃は、週 1～2 回の JTA テコンドーのみで十分なのです。  
全日本 F T 大会等の補足稽古は、学業にひびかない程度の自主練で十分です。  
とくに義務教育の中学校は、基礎知識を学ぶところであって部活を行う場ではありません。  
ほぼ毎日、朝から晩まで部活をやり、  
夜、疲れた体で塾に通って学業がのびた少年少女を 3 5 年間、見たことがありません。  
親が強制すればするほど、やる気を失う子供がほとんどです。

（球技は部員の 6 割近くが試合に出れませんので、コンプレックスを持ってしまうおそれがあります。  
「補欠でも部活をやめない耐える力」はナンセンスです。  
大人になって会社に入って下積み（＝補欠）でも我慢しろ、ということでしょうか。  
他方、J T A テコンドーは、試合にエントリーして自分を試すことができます。  
負ければ自分の弱点を知ることができます。  
負けても負けても挑戦し続けるチャレンジャー精神を子供の頃から涵養することが大切なのです。  
なぜなら、この打たれ強さとたゆまぬ向上心こそが、  
幸福な人生を歩むもつとも確実な心性だからです）

中 3 年の夏に部活を完全に引退したら、僅か半年間で高校進学のための学業に専念できるのか、  
学力は本当に伸びるのか、という問題があります。  
人間の脳はそれほど器用ではありません。  
運動漬けの部活中心の 2 年半で、脳は当該スポーツだけに反応してしまいます。

学力の飛躍的向上はのぞめません。

文武両道は、子供の自主性の涵養が鍵です。

自主性は、成熟した指導者、親以外の成熟した大人からの薫陶で育まれます。

しかし、理屈だけではものになりません。

J T Aテコンドーで精神と肉体を鍛えながら薫陶を受ければ「正しい思想」になります。

クラブ長のみなさん！

人を育てているという使命感をもってがんばってください。